

「大学院生研究発表会 in ガジャマダ大学」

保健学研究科 修士課程 押谷 晴美

1. はじめに

今回、ガジャマダ大学で開催された「11th International seminar on disaster: Collaboration of Different Generation in the Community」に参加することができた。インドネシアは2回目の渡航であり、前回のインドネシアにおける活動をセミナーで報告できたことに感謝したい。今回参加をサポートしてくださったガジャマダ大学、神戸大学の方々に感謝の意を表したい。

2. 活動報告

滞在中は、Ms. Elsi Dwi Haprsari、Ms. Sri Hartiniをはじめ多くのスタッフの方々のサポートをいただきながら、さまざまな活動を体験できた。インドネシアの文化、大学院生との交流会、セミナー参加にあたって学んだことをここに記載する。

・インドネシアの文化：「イモギリ陵墓」

週末をはさんでの渡航であったため、週末は Ms.Sri Hartini にジョグジャカルタの観光地を案内していただいた。印象に残ったのは、「イモギリ陵墓」である。「イモギリ陵墓」はマタラム時代の王が眠る墓であり、伝統的衣装に着替えて参拝することができる。王の墓にはメッカから持ち帰った土が埋め込まれており。その土は薫り高く、多くの人を訪れていた。

「イモギリ陵墓」では宗教に関係なく王の墓に参加することができ、私自身も伝統衣装に着替え、王の墓に参拝しメッカの土の香りを体験することができた。今でも非常に薫り高く残っていることに感動した。前回の渡航時にも感じたことであるが、ムスリムの人々は信仰深いがそれを他者に押し付けることがないということである。またムスリムの世界を知りたいと思う人には非常に寛容で多くのことを教えてくれる。自分の人生が良いもの



「大学院生研究発表会 in ガジャマダ大学」

保健学研究科 修士課程 押谷 晴美

になるかどうかは自分次第であり、また良い行いをすることによって自分の死後、神に近づけると考えており、困っている人にはとても親切である。この考え方に共感するとともに、日本人である私が王の墓に入りメッカの香りを体験できたことができたことはとても神秘的な体験であり寛容なムスリムの人たちに感謝したい。

・大学院生との交流

滞在中にガジャマダ大学の大学院生と交流する機会を得ることができた。29名の学生が参加してくださった。ほとんどの学生がガジャマダ大学の周辺に寄宿しているため家族とは離れ離れの生活となっている。彼女らの多くが、子育てをしながら学校で教員として働き、そしてさらに大学院生としての生活を送っており、彼女たちのモチベーションの高さに驚いた。子育て、仕事、学業、すべてをこなすことに想像以上の努力と苦労があると感じられたが、それ以上に彼女たちの学ぶことへの熱意と向上心は高かった。一人の学生は入試に4回もトライしていた。私ならば、自分には縁がなかったと思い、すぐに諦めてしまうところであるが、彼女は学ぶチャンスを得ることを諦めなかった。チャレンジし続けた背景には彼女たち自身の努力ももちろんのことながら、家族の支えがあってこそではないかと思った。日本では、まだ子育てをしながら大学院で勉強することへのハードルが高く感じられる。看護の分野でインドネシアは日本よりもワークライフバランスが充実しているのではないかと感じられた。

現在神戸大学大学院で博士課程に在籍している Ms.Sri が、自分の体験を基に、海外で学ぶことについての情報提供をされた。インドネシアはイスラム教の人が多く、食事や宗教の違いについて話をされた。彼女たちの中には日本で博士課程に進みたいと思っている人もいたため、今回の交流会は有意義なものになったと考える。より多くのインドネシアの学生が日本にて学ぶ機会を得られるよう、入試試験の詳細な情報や奨学金制度などの情報がより容易に得られるようになればと思う。



「大学院生研究発表会 in ガジャマダ大学」

保健学研究科 修士課程 押谷 晴美

・セミナー参加

今回で11回目に向かえる International seminar on disasterに参加した。神戸大学と協働で開催され、インドネシア全土から参加者が集まった。セミナーのテーマは災害であるが、私の研究について発表する機会をいただくことができた。学会での発表は初めて出会ったため非常に緊張したが、貴重な体験となった。会場から質問をいただくこともでき今後研究を進めていく上で答えを見たいしていきたいと思う。

インドネシアは災害のスーパーマーケットと言われている。地震、津波、洪水、火山噴火、毎年多くの災害に見舞われている。今回のセミナーではメラピ山噴火後の人々への影響が多く研究されていた。また注目されていたことは、地域の防災力をいかに向上していくかということであった。これは日本でも言われていることであり、災害発生直後はそこにすむ地域住民が力を合わせて助けあっていく必要がある。このセミナーを通じて、災害大国である日本と過去の経験や現在の取り組みを情報共有しながら、防災、減災につなげていければと思う。このようなすばらしいセミナー参加できたことをうれしく思う。



3. おわりに

今回、初めて国際セミナーに参加させていただき、貴重な経験を積むことができた。このような機会を与えていただいたことに感謝している。これからもこのセミナーが続き、同じ災害大国として互いに防災、減災に向けて協働しながら取り組んでいければと思う。